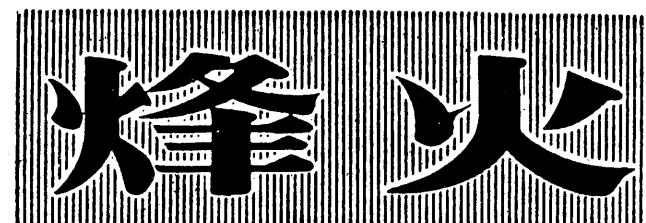


各号の内容

## 91年の内外情勢を ふりかえる

- ◆JPM90sの全国化を ..... P2~3
- ◆シオソンさんの死 ..... P4~5
- ◆烽火年間総目次 ..... P6~7
- ◆P8

1991年  
12月1日  
第437号  
編集発行人 高木一夫  
一部 200円



ZOROSHI

## 共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19  
明豊ビル401号 大労協内  
TEL.(06)371-3706  
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫  
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫

「つぶせPKO法案、生かせ憲法九条 11・20全国集会」

「つぶせPKO法案、生かせ憲法九条 11・20全国集会」(日比谷野音)

PKO法案強行採決弾劾！  
11・20  
全国集会に五千  
ともにたたかわん！

PKO法案強行採決弾劾！

PKO法案は、自衛隊海外派兵法案の国会再上程に対し、全国的なたたかいが急速に発展してきた。一月二〇日には、東京・日比谷野外音楽堂において、「つぶせPKO法案、生かせ憲法九条一一・二〇全国集会」が開催された。この集会を主要に準備してきたのは、社会党左派・全労協・日市連であった。一月下旬にも衆議院におけるPKO法案の強行採決が予測されるという緊迫した状況のもとで、日比谷野音は全国から結集した五〇〇〇名を越える労働者人民に埋めつくされた。

集会は、社会党の斎藤一雄衆議院議員の国会情勢報告、社民連の田英夫参議院議員のPKO法案に対する中国・カンボジアの態度の報告から開始された。次いで、全国から結集した労働組合を代表して、神奈川高教組委員長の山崎正道氏、自治労都職労委員長の旭喜久男氏、広島労働組合共闘会議代表からの決意表明がおこなわれた。そして、沢光代さん（逗子市会議員）、ダグラス・スマスさん、牧野剛氏（河合塾教師）、長谷ゆり子さん（社会党衆議院議員）、小澤克介氏（社会党副書記長）からの発言、国会議員への請願行動、実行委員会事務局からの行動提起がなされた後、東京駅までのデモがおこなわれた。

寒風吹きすさぶ中において開催された集会であったにもかかわらず、日比谷野音は終始たたかいの熱気で包まれ、全国から結集した労働者人民は何としてもPKO法案を廃案に追い込むのだという決意に満ちていた。しかしながら、集会決議に示された基調は、このような全国の労働者人民のたたかいをアジア・第三世界人民との国際連帯へといざなうことにおいて大きな限界を持つものであり、アジア・第三世界に君臨せんとする日帝との正面戦へといざなうことにおいて大きな限界を持つものであった。この集会の基調は、労働者人民のたたかいを憲法九条の防衛に焦点づけ、政府がしきつめた「国際貢献」という土俵の上で自衛隊派兵による貢献なのか、平和的貢献なのかを争うというものになってしまっていたからである。

全国のたたかう労働者人民はこのような限界を踏みこえ、今こそアジア・第三世界人民と連帶する新たな反戦反安保闘争の巨大なうねりをつくりだしていくかねばならない。PKO法案をもっての自衛隊海外派兵の狙いは、急激に拡大するアジア・第三世界における日帝の経済的権益を自衛隊によって実力防衛することにあり、日帝の権益を脅かすアジア・第三世界人民とともに共通の敵である日帝とのたたかいに立ちあがるのか、軍事的にたたきつぶすことにある。まさに、日本人民は日帝の侵略反革命に動員されてアジア・第三世界人民にふたたび銃口を向けるのか、アジア・第三世界人民とともに共通の敵である日帝とのたたかいに立ちあがるのか、このような歴史的岐路に立たされているのだ。

日本労働者人民を日帝との正面戦へといざなっていくために、アジアにおける国際反帝統一戦線を創建し、国際反帝統一戦線と結合した日本における新たな反戦反安保闘争のうねりを全力でつくりだそう。自衛隊海外派兵を阻止するために全国で立ちあがる先進的労働者人民こそがこの新たなたたかいに総結集し、全人民的な自衛隊海外派兵を阻止するためのアジアにおける人民の国際共同闘争を推進しよう。

真紅のプロレタリア、国際主義の旗のもと、ともにたたかわん！

# 91年の内外情勢を 振りかえる

ことは現代史における大きな転換点として後世の人々に記憶される年となるだろう。一月の多国籍軍によるアラブ侵略戦争（湾岸戦争）によって幕をあけた一九九一年は、「新世界秩序」という国際帝国主義の高らかな「勝利宣言」をもってその幕を閉じようとしている。ソ連で開始されたペレストロイカは、八月のソ連における「保守派クーデター」の失敗と共産党および連邦の解体という事態をもたらし、スターリン主義の完全な破壊を世界史に刻印した。「冷戦の終焉」という美名のもとに開始された国際帝国主義による世界支配の再編をめざす攻勢は、第三世界における反帝民族解放闘争と社会主義革命運動に対する容赦なき包囲・鎮圧と解体攻撃をもたらしている。

日本帝國主義は湾岸戦争を契機として、ついに四月掃海艇部隊をペルシャ湾に派兵するとともに、昨年の国連平和協力法案に引き続いてPKO協力法案を国会に上程することにより日本軍の本格的な海外派兵への道を開きつつある。社会主義圏の崩壊とともに従う帝国主義間経済抗争の激化に直面する日帝は、アジアの盟主としての国際的地位の確立にむけて四月海部のアセアン歴訪に続き、九月には史上初の天皇アセアン諸国歴訪を実現し、名実ともにアジア・太平洋地域に君臨する政治・経済・軍事大国としての姿を鮮明にした。帝国主義による搾取と抑圧からの解放を求めてたたかうすべてのアジア人民にとって、自衛隊海外派兵の実現は日帝の再侵略の「始まり」などではなく、その本格的段階の開始にほかならない。

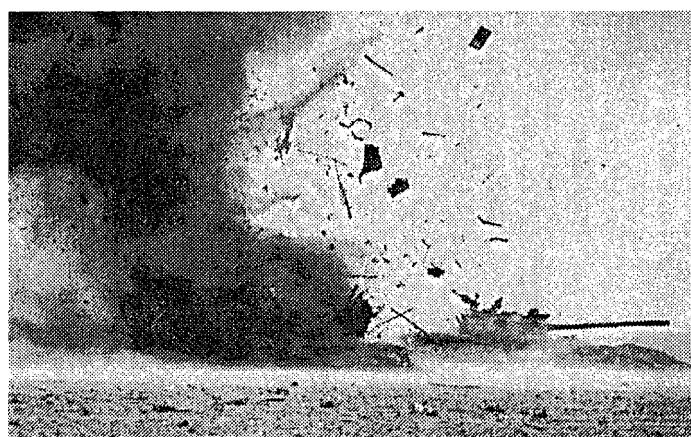
## 湾岸戦争と米帝の攻勢

一月十七日の米帝主導の多国籍軍によるイラク軍事侵攻の開始をもって一九九一年は幕をあけた。一九八九年一二月のマルタでの米ソ首脳会談において宣言された「冷戦の終焉」と米ソ協調体制のはじまりは、結局のところ「平和」ではなく、国際帝国主義による世界支配の秩序維持と第三世界人民に対するむき出しの暴力的支持を意味するものだということが、全世界人民のまえに赤裸々に示された。湾岸戦争での勝利宣言によって国際帝国主義の盟主としての政治的ヘゲモニーを確立した米帝は、米ソ協調体制の枠組みを越えて、新世界秩序の名のもとに帝國主義の世界支配秩序の再編に乗りだした。七月に開催された第一七回先進国首脳会議（ロンドン・サミット）の政治宣言では、米帝主導の多国籍軍によるアラブ侵略戦争が国連安全保障理事会の諸決議によって正当化され、第三世界の「地域紛争」に対しては今後も国連の名の

もとに湾岸戦争型の侵略と介入を行うことが公然と表明された。

このような国際帝国主義の攻勢を可能としたのが、ペレストロイカによって推進されてきたソ連による帝国主義との協調外交であった。ゴルバチョフ・ソ連大統領は非公式ながら参加国待遇でロンドン・サミットに招請され、国際通貨基金（IMF）・世界銀行への特別参加を認められた。ゴルバチョフはその後のモスクワでの米ソ首脳会談における戦略兵器削減条約の締結の際には「（ロンドン・サミットの場で）新しい国際的経済関係の枠組み作りが始まった」とまで述べて、帝国主義の新世界秩序に対する全面的な屈伏姿勢を明らかにしてきた。

しかし、事態はそれとどまらなかつた。各共和国の主権拡大をもたらす新連邦条約の調印を翌日に控えた八月十九日、ソ連において共産党「保守派」によるクーデターが発生した。し



米軍に爆破されたイラク軍の車両（2月25日）

かし、すでに人民の支持をまったく失なつてた「保守派」のクーデターは、ペレストロイカにかかる新たな路線を提示することも、軍や國家機関を統制することもできずにわずか三日間で自滅するという無残な結末を迎えた。ソ連共産党の解散という決定的な事態を招来させた。これにより、スターリン主義体制維持のために上からの改革として進められてきたペレストロイカは終焉し、それとともにソ連におけるスターリン主義体制も最終的な崩壊を迎えたのである。

これは一九八九年以來の東欧における旧共産政権の崩壊に続いて、これまで国際共産主義運動を支配してきたスターリン主義の完全な破壊を世界史に鮮明に刻印した事態であった。それはいかに苦難に満ちたものであつたとしても、国際共産主義運動再建にむけた新たな国際階級闘争の歴史への道を開くものである。しかし現在、ソ連においてペレストロイカにとつてかわったのは、さらなる急速な資本主義化と世界資本主義経済体制へのロシア共和国の統合をめざすエリツィンら「急進改革派」の路線である。これはもはや国際帝国主義による新世界秩序形成に追随するにとどまらず、その一翼を積極的に担うことによってロシア共和国一国の生き残りを表明された。

ソ連における事態は、帝国主義の相対的安定状況を支えてきた第三世界の深刻化する累積債務問題に代表される経済の破滅的状況と危機に直面しつつあった国際帝国主義にソ連市場を開拓していくことによって、世界のたたかう人民に対してではなく、世界の帝国主義者たちに対し「希望」を与えるものであった。キューバをはじめとする第三世界の社会主義勢力と反帝民権域にいたるまで全面的に介入し、インドシナ半島の解体が、このカンボジアPKOの国際帝国主義にとっての真の目的である。このPKOを通して、国連を錦の御旗としながらカンボジア「和平」と新国家建設の過程に内政や治安の領域にいたるまで全面的に介入し、インドシナ半

りを展望しようとする反動的路線である。このソ連における事態は、帝国主義の相対的安定状況を支えてきた第三世界の深刻化する累積債務問題に代表される経済の破滅的状況と危機に直面しつつあった国際帝国主義にソ連市場を開拓していくことによって、世界のたたかう人民に対してではなく、世界の帝国主義者たちに対し「希望」を与えるものであった。キューバをはじめとする第三世界の社会主義勢力と反帝民権域にいたるまで全面的に介入し、インドシナ半

## 開始されたPKO派兵

また一九九一年は、日帝がいよいよ本格的な侵略反革命の発動に踏みだし、「アジアの盟主」たる基軸帝国主義国としての国際的地位を確立していく年となつた。湾岸戦争を前後してブルジョア・マスコミによって執拗にくり返された「国際貢献」キャンペーンを直接の契機として、戦後の反戦平和運動の支持基盤となってきた労働者大衆のいわゆる国民的反戦平和意識は躍動をはじめた。日帝はこの機をとらえて、四月には自衛隊掃海艇部隊のペルシャ湾派兵を実現し、一〇月には昨年廃案となつた国連平和協力法案に引き続いだPKO協力法案を国会に上程してきた。そのPKO法案は一月二七日、衆議院・国際平和協力特別委員会において強行可決され、日帝はついに基軸帝国主義国への飛躍に際して必ず越えねばならないハードルのひとつ—自国軍隊の海外派兵—を「平和維持活動」の美名のもとに飛び越えたのである。自國権益を自国の軍事力によって防衛できる体制への移行は、日帝ブルジョアジーの戦後一貫した「悲願」であった。PKOへの自衛隊の参加は、近い将来に「海外在留邦人の保護」などの新たな名目のもとに、より侵略的な日帝の反革命介入への道をひらいていくものとなるだろう。

日帝ブルジョアジーがPKOへの自衛隊派兵の合法化をこれほどまでに急いだ理由のひとつは、湾岸戦争後の最初の国連の大規模なPKO発動の対象としてカンボジアが選択されたことにある。米帝が喧伝（けんでん）する新世界秩序のもとで、国連PKOが担う役割はより侵略的・介入的なものへと再編されつつある。それは湾岸戦争後に確立された米帝の相対的ヘゲモニーのもとで、国際帝国主義の共通利害を防衛するために発動される共同侵略反革命介入としての性格を露骨に強めつづる。社会主義ベトナムの包囲を中軸とするインドシナ半島情勢の「安定化」とインドシナ反帝民族解放闘争勢力の解体が、このカンボジアPKOの国際帝国主義にとっての真の目的である。このPKOを通して、国連を錦の御旗としながらカンボジア「和平」と新国家建設の過程に内政や治安の領域にいたるまで全面的に介入し、インドシナ半

りを展望しようとする反動的路線である。このソ連における事態は、帝国主義の相対的安定状況を支えてきた第三世界の深刻化する累積債務問題に代表される経済の破滅的状況と危機に直面しつつあった国際帝国主義にソ連市場を開拓していくことによって、世界のたたかう人民に対してではなく、世界の帝国主義者たちに対し「希望」を与えるものであった。キューバをはじめとする第三世界の社会主義勢力と反帝民権域にいたるまで全面的に介入し、インドシナ半

族解放闘争勢力は、ソ連からの援助の全面停止によって国際帝国主義への屈伏を強制されている。

一九九一年は、国際帝国主義にとって、一九一七年のロシア革命の勝利以降はじめて到来したといつてもよい歴史的攻勢局面への転換点となるとともに、帝国主義の抑圧と搾取から解放を求めてたたかう全世界の人民にとっての困難な持久戦の一時代の到来を告げた年となつた。

## 反帝国際共同闘争を！

島に親帝国主義政権を樹立することによって、ベトナム戦争での敗北によっていたんは失った帝国主義の橋頭堡を回復することが狙われている。したがって、このカンボジアPKOへの日帝の参加は、たとえ自衛隊が派兵されない「非軍事的分野」に限定されたものであつたとしても、徹頭徹尾侵略的な帝国主義的介入政策の発動なのである。

しかし、新世界秩序とは、国際帝国主義による「地域紛争」＝第三世界の反帝民族解放－社

会主義革命運動の共同包囲網の形成を意味するとともに、「社会主義圏」という共通の敵の喪失によって帝国主義間経済競争の激化が帝国主義間の政治的対立へと不斷に転化しかねない時代の到来をも意味している。一方で激化し続ける帝国主義間経済抗争の未来を展望した時に、すでに経済競争の領域においては米帝を駆逐してアジアにおける支配的帝国主義としての地位を確立した日帝にとって、湾岸戦争後のアジアにおける初の大規模なPKOとなるこのカンボジアPKOへの「非軍事的分野」にとどまらない自國軍隊の派遣は、必ずやなし遂げねばならない課題であった。日帝は、ことし四五月の海部アセアン諸国歴訪に続いて、九月一〇月には史上初の天皇アセアン諸国歴訪を実現することによって、アジアにおける政治大国としての地位を確立しようとしてきた。きたる九二年一月の米帝ブッシュの来日において予定されるアジア・太平洋新秩序形成をめざす共同宣言の発表により「アジアの盟主」としての地位を世界に宣言していくためにも、アジアにおける政治的・軍事的基軸帝国主義国としての支配の確立が日帝にとっての焦眉の課題となっている。

とりわけわれわれは、日帝が支配の確立を急ぎ侵略反革命の直接の対象としているアジア・太平洋地域におけるたたかう人民の反帝国際共同闘争を強化していかねばならない。われわれはこの数年、フィリピンをはじめとするアジアの反帝民族解放－社会主義革命勢力へのプロレタリア国際主義にもとづく政治的・物質的・精神的支援を基礎として、アジアにおける反帝国際統一戦線の形成にむけて全力で活動してきた。その活動の真価が今や問われようとしている。新世界秩序のもとでアジア・第三世界人民のたたかいに対する侵略と介入の牙をむこうとして

いる日米軍事同盟に反対し、日本軍の海外派兵に反対するアジア人民の反帝国際共同闘争が今こそ開始されなくてはならない。

古い共産主義（スターリン主義）は、まさにプロレタリア国際主義の実践が最も強く要請された時代の到来を前にして瓦解した。八〇年代を通して世界の帝国主義と新植民地国への分裂は極限まで進行し、階級矛盾と階級闘争の発現は国際的にしかその総体をとらえることはできなくなつた。このような時代に「一国社会主義建設」をその本質路線としてきた古い共産主義（スターリン主義）が、世界の人民に対して何の希望も示すことのできない遺物と化して崩壊したのは当然であった。しかし、帝国主義の搾取と抑圧からの解放を求めてたたかい続けてきた第三世界人民にとっては、古い共産主義（スターリン主義）の崩壊も国際帝国主義の新世界秩序も、矛盾の激化を意味するものではあってもかつてその解決をもたらすものではないのである。われわれは、第三世界の反帝民族解放－社会主義革命勢力への全力での支援と反帝国際共同闘争の開始こそが、この矛盾を解決する唯一の道であると確信する。そして、このような実践を通しての国際共産主義運動の再建こそが、世界人民の前に共産主義を新たな希望として復権していくために、われわれに求められているたたかいなのである。

## フィリピンから三氏迎え

# 国際連帯集会を開催

11・10

大阪

この秋「ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動・90」(JPM90's)は、フィリピンの人民組織の代表を招いて、①ピナトゥボ被災者救援②カラバルソン計画反対③人権弾圧に抗議する④PKO・自衛隊海外派兵反対の大キャンペーンを開催した。一〇月二九日には愛知、一一月七日には東京でJPM90'sの集会が開かれ、昨年からはじまった運動はあらたな広がりを見せていく。国際連帯運動の新しい内実と実践を目指すJPM90'sの今秋の取り組みの一部を紹介する。



日本のアジア支配に反対し、アジア人民の連帯と団結を！11・10集会  
(11月10日・大阪部落解放会館)

日本政府にODAをピナトゥボ被災者救援に振り向けるよう働きかけるとともにアキノ政権に全面戦争政策をやめさせるよう日本の人民が圧力をかけてほしい」と訴えた。

カラバルソン計画の中心地である南部タガログから来日したSTアジエンダ事務局長のエドアルド・M・モラさんは同計画について、『カラバルソン計画は土地の高騰、環境汚染、労働者からの搾取、自然资源の収奪を押しすすめるものであり、「カ

フィリピンの人民はこの計画から何も得ることはできない。フィリピン政府と日本政府にカラバルソン計画の即時中止、日本政府にODAを真

に人民的な援助として供与することを要求していくとともに日本人民にフィリピン人民の民族主義経済の安定化を支援、援助していただきたい』と呼びかけた。

一一月一〇日、大阪の部落解放会館で「日本のアジア支配に反対し、アジア人民の連帯と団結を！」一・一・一〇集会」が「ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動・90」(JPM90's)の主催で開催された。集会には関西の労働者、学生、市民運動家など八〇人が集まつた。集会は三部構成で第一、二部がフィリピン派遣団のスライド上映とフィリピン人民組織代表のアピール、海外からのメッセージの紹介、第三部が基調提起、抗議文採択などでおこなわれた。

フィリピンのピース・フェスティバルのスライド上映がおこなわれた後、BAYAN中部ルソン支部およびUGNAYANを代表してカレン・ゴンザレスさんが演壇に立ち、ピナトゥボ被災者への救援を呼びかけた。この中でゴンザレスさんは「ピナトゥボ火山の噴火は今世紀最大の規模であり、二〇〇万人が被災、死者は六〇〇人以上、六〇万人の労働者が失業に追い込まれている。アキノ政権はこの度の被災に対し、救援する能力を持っていない。また、この機に乗じてアキノ政権は全面戦争政策を強化し、人民への弾圧を強めている。

JPM90'sがこの一年有余の活動中で培ってきたものは日本の国際連帯運動の中で極めて貴重なものである。日本のアジア・太平洋圏への侵略がアジア・第三世界人民との対立を深め、PKO法の制定化の動きに示されるように軍事的圧力をもつてこうした闘争を鎮圧していくこうとする状況にあって日本の反戦・平和運動、国際連帯運動は大半が限界に突

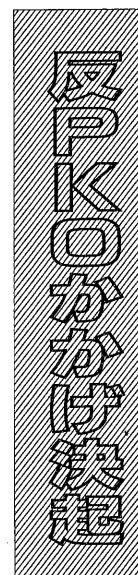
# 初の首都圏集会

11・7



世話人会設立を呼びかける小城世話人  
(11月7日・南部労政会館)

11・25



大阪

き当たっている。護憲を基調とする反戦・平和運動を乗り越え、日本のアジアへの軍事出動と真にたたかえるものへと反戦・平和運動を強化しよう。国際連帯運動をアジア人民の

反政府・反帝闘争との連帯に押し上げ共同闘争を構築していく。われわれは、JPM90'sのこの先進的なものへと反戦・平和運動を強化したたかいを今後も支援していく。

「首都圏集会」が約70人の結集によって開催された。この集会は、JP90'sの呼びかけにもとづき、東水労青婦部、自立労連関東地協、全国一般神奈川地連、横浜緑区職労などの首都圏の労組・大衆組織の参加と協力によって実現したものであり、JPM90'sとしての最初の首都圏における集会として大きな成功をおさめたものであった。

一一・7集会は、フィリピン人民を代表した一人の活動による提起から始まった。BAYAN中部ルソン支部およびUGNAYANを代表して発言に立ったカレン・ゴンザレスさんは、ピナトゥボ火山噴火の被災者の窮状を訴え、何ら有効な救援活動をおこなわないアキノ政府の反人民性を厳しく批判した。そして、被

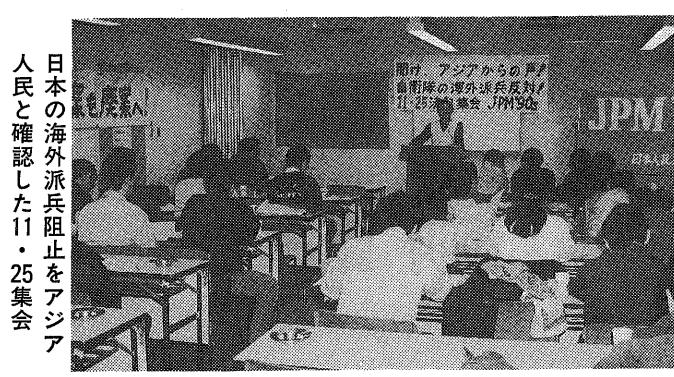
災者自身が団結し、アキノ政府とのたたかいに立ちあがっていくことが必要となっており、そのためのUGNAYANの活動への支援を呼びかけた。次いで発言に立ったフィリピン問題資料センターの代表は、南ナガログ地方において進行するカラバルソン計画がどれほど過酷な苦しみをフィリピン人民に与えようとしているのかを訴え、日本政府とフィリピン政府にカラバルソン計画を中止させていくためにたたかってほしい呼びかけた。そして、日本のODAをこのような反人民的計画にではなく、フィリピンの貧しい人々の真に役に立つような援助へと転換させていってほしいと提起した。

この一・7首都圏集会は、関西地方から開始されたJPM90'sが首都圏においても根づいていく、全国運動へと発展していく大きな一步をつくりだしたものである。PKO法案による歴史的な自衛隊海外派兵攻撃がうちおろされていき、日本における政治状況はいま大きな転換期を迎えている。このただ中において、アジア第三世界人民との長期的で組織的な連帯関係をうちたて、アジア第三世界人民との国際共同闘争をもつて自衛隊の海外派兵とたたかうJP90'sの持つ位置はますます重要な

# JPM90s

発言を受け、JPM90'sの世話人である小城修一氏（洛南労組連代表幹事）からの基調提起がおこなわれた。小城氏は、JPM90'sとBAYAN全国執行委員会との連帯協定締結の意義や九月に開催されたフィリピン・ピースフェスティバルに触れながら、今こそアジア人民と連帯した反侵略のたたかいをつくりだねばならないことを熱烈に訴えた。そして、この首都圏においても、JPM90'sの世話人会・運営委員会を設立し、引きつづくたたかいを進めてほしいと提起した。

次いでJPM90's事務局から、PKO法案批判とたたかいの呼びかけがおこなわれた。JPM90's事務局は、PKO法案が日本のアジア第三世界における海外権益を防衛するための自衛隊の海外派兵を狙うものであり、日米安保の再編を通して日本の軍事的支配圏を一挙にアジア第三世界におし拡げようとするものだと鮮明に提起した。そして、フィリピンをはじめアジア第三世界人民との国際共同闘争を築きあげ、何としてもPKO法案を廃案に追い込んでいくことを呼びかけた。



日本の海外派兵阻止をアジア人民と確認した11・25集会

その後、JPM90's事務局からのフィリピン・ピースフェスティバルへの派遣報告、東水労青婦部からのミュー・パックへの派遣報告がおこなわれた。そして、ピナトゥボ火山被災者への救援カンパの呼びかけ、集会決議の採択、行動提起がおこなわれた。

この一・7首都圏集会は、関西地方から開始されたJPM90'sが首都圏においても根づいていく、全国運動へと発展していく大きな一步をつくりだしたものである。PKO法案による歴史的な自衛隊海外派兵攻撃がうちおろされていき、日本における政治状況はいま大きな転換期を迎えている。このただ中において、アジア第三世界人民との長期的で組織的な連帯関係をうちたて、アジア第三世界人民との国際共同闘争をもつて自衛隊の海外派兵とたたかうJP90'sの持つ位置はますます重要な

われわれは、JPM90'sの全国における発展を支持し、その前進のために共に立ちあがるようにすべての先進的労働者人民にあらためて呼びかける。

# シオソンさんはなぜ 日本で死んだのか

事件についての一つの声明

**資料**

## 出稼ぎ労働者の合法化を

フィリピン・KMU(五月一日運動)

10月25日

日本で働いていた一人のフィリピン人女性の死がフィリピンの社会に大きな反響を呼び起した。多くの団体が彼女の死に不審を抱き、真相の徹底究明を求めている。まぎれもなく日本の社会が生

み出した彼女の死について、フィリピン最大の労働団体KMUと日本のJPM90'sがそれぞれの態度を表明しているので掲載する。(タイトルは編集部でつけました)

### 出稼ぎ労働者の合法化を

フィリピン・KMU(五月一日運動)

10月25日

子供の頃から味わってきた貧困に疲れ、マリクリス・シオソンさんはナイトクラブのダンサーとして日本へ行った。異国での財産を得ることを夢見ながら、彼女は十分稼いだら故国へ帰ろうと考えていた。けれども、稼ぎで財布一杯にして帰ってきた者たちとは違い、シオソンさんは、去る九月二五日、箱に入れられた帰ってきた。公式報告によると、彼女は伝染病で死亡したとされている。彼女の家族はこれに異議を唱えている。彼女の死体に暴行の跡が残っていたからだ。彼女は、享年二十二歳であった。

シオソンさんは九月一四日、福島県の墳(はなわ)厚生病院で死去した。その病院は彼女の死因を「劇症肝炎」と診断した。だが、国家捜査局がフィリピンで行った検視解剖により、シオソンさんの死因は「頭部の外傷」であることが明らかになつた。彼女の頭部の傷は、何か固い物で殴打されたことを示している。彼女の性器は刃物で突き刺されていた。シオソンさんの親類は、彼女は殺されたのであると主張した。犠牲者が四ヶ月働いた「フェイシズ・スパークル」の経営者側は、これに

異議を唱えている。マニラの日刊紙には、日本のあるヤクザ組織がシオソンさんを殴打し致命傷を与え、病院の医師たちに賄賂を与えて彼女の死因を覆い隠したと報じたものもある。

東京では、フィリピン大使館の労務官レイナルド・パルンガオは、「大げさな主張」は政府の信用をなぐそくと努めている者たちの悪意に満ちた仕業であると述べて、こうしまた、シオソンさんは自然死であるという病院の主張を支持し、犠牲者の雇用主が従業員たちを過酷に扱つたという非難も理由のないことであると述べた。

犠牲者の家族をなだめようと、フィリピン海外雇用庁(POEPA)長官ホセ・サルミエントはシオソンさんの通夜へ行き、保険金と未払い賃金のうち一五〇〇ドルと二万五千ペソを届けた。その金は、シオソンさんを北方の地である福島県へ送つたりクルーターのサングレ・ベルナーベから出たものであった。

家族はその金の受け取りを拒否した。なぜなら、その保険金は自然死に対する支払いであったからである。

この金を受け取ることは、シオソンさんが誰かに殺されたのではないと認めることになるのである。

サルミエントがこのリクルーターの「特使」を買って出したことにより、犠牲者への支援を申し出していた女性グループは辛辣な批判を開始した。KMU婦人部は、政府のシオソンさんの死に対する消極的な態度を激しく非難し、彼女の死に関する調査が覆い隠されるかもしれないと警告した。

KMU婦人部は、政府のシオソンさんの死に対する消極的な態度を激しく非難し、彼女の死に関する調査が覆い隠されるかもしれないと警告した。

民間運動グループは政府機関に急に調査をし、被害者のために裁判を起こすよう要求している。その中の「女性のためのバティス・センター」は日本や他の国での出稼ぎ労働者の状態をアピールするために日本大使館にピケを張った。

事務局長のカルメリータ・ヌグイは、この事件は偶発的なものではないと言っている。彼女によると、バティスに協力している東京の女性グ

ループから、シオソンさんと同じくラブで働いていた二人のフィリピン人のダンサーが三月に経営者の虐待に耐えかねて逃げ出した、との報告を得ているという。

東京の「ヘルプ」(アジア女性の駆け込み寺)によると、この二人は経営するクラブに連れ戻されてしまつた。

フィリピン外務省の役人は最初、日本でフィリピンのエンターテイナーへのひどい扱いが多発することを認めていなかつた。まもなく、シオソンさんが悲しい死を迎えたその同じ福島で、別のフィリピンダンサーであるセシリア・アガンさんが亡くなつた。アガンさんの斡旋者は、死因は高血圧による脳出血だと主張している。しかしアガンさんの夫は、死体にシオソンさんの時と同様拷問の跡があるのでこれを争うとしている。他にも一〇人のフィリピン人が日本で「不可解な死」を遂げている。

アキノ大統領は、労働大臣ルーベン・トレスに東京に行ってシオソンさんの死の真相を究明するよう命じた。労相は東京で日本の警察から、彼女の死因には疑うべきことは何もないとして調査を拒否された。彼は外交活動によって事件の再調査を求めているが、この政府の活動は実際の成果を生むかどうか疑つている者が多い。

### 同様の事件はつづく

約一〇万人のフィリピン人が日本で働いており、その半数はナイトクラブや小さいバーで働くエンターティナーのビザを持っている。しかし多くのフィリピン人がまた非合法に働き、フィリピンのヤミのリクルーターの犠牲者になっている。虐待されたり売春を強いられることは海外でダンサーやエンタテイナーとしてで働くフィリピン女性にとって珍しいことではない。

フィリピンの戦闘的な女性組織「ガブリエラ」は日本へのエンターティナーの送り出しを一時中止するよう、また出稼ぎ労働者に対する完全

年度	船員以外	船員	計
1981	210,936	55,307	266,243
1982	250,115	64,169	314,284
1983	380,263	53,944	434,207
1984	371,065	54,016	425,081
1985	337,754	51,446	389,200
1986	357,687	56,774	414,461
1987	425,881	70,973	496,854
1988	381,892	95,872	477,764
1989	407,974	115,010	522,984

烽 火

な保護計画を作るよう政府に要求した。彼らは政府が出稼ぎ労働者を單なるドル送金の手段と考えている限り、シオソンさんの死のような事件は今後も引き続きおこるだろうと考えている。

### 支援要請

KMUは、アキノ政府にシオソンさんの死やその他の犠牲者について完全な調査をさせるよう圧力をかけ

完全な調査をさせるよう圧力をかけ

**1**

現在フィリピンでは、マリクリス・シオソンさんという名の出稼ぎフィリピン人の死をめぐって、日本大使館やフィリピン政府に対する激しい抗議行動が大衆的にまきおこっている。

日本の福島県のあるクラブで働いていたマリクリスさんが、本年九月一四日福島の病院で死亡し、その死因は「劇症肝炎」であるとされた。だが、本国に帰された遺体をフィリピンの国家検査局(NBI)が検視解剖したところ、「死因は頭部の外傷」との判断が下された。フィリピンの新聞は「やくざに殺された」等の見出しで連日関連記事を掲載し、また「ガブリエラ」「バティス」などの女性運動団体をはじめとするフィリピンの人々は死因の徹底究明を要求し大衆的で激しい抗議行動を組織している。

JPM90'sは、今回の事件を通して浮かび上がっている日本のフィリピンに対する支配・抑圧の現状、フィリピン人民が告発する問題を考えた

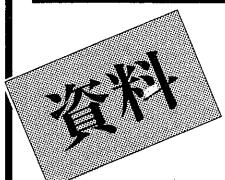
**2**

## 政府と資本の責任を問う

JPM90's

(ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動90)

10月31日



マリクリスさんの死因については、日本人側関係者は当該病院の医師を始めこそって「劇症肝炎」であり、暴行等の事実は一切ないと主張している。だが、フィリピンでは家族は暴行による死亡と主張しており、NBIも頭部外傷を死因であると発表している。フィリピンでは死因を確かめるためにトーレス労働相を日本に派遣して調査したが、決め手となるものは得られなかった。

私たちも現在科学的な根拠をもつて死因が何であるかを断定しうる条件を持っていない。しかしながら、

ることを、世界中に要請する。また同様の悲劇の犠牲者のために、政府が全力あげて裁判に訴えることを要求する。

アキノ政府は、日本のクラブ等で

働いているフィリピン女性を単なるエンタテイナーではなく出稼ぎ労働者として扱わねばならない。海外の

フィリピン労働者をほんとうに守ることを政府に要請していただきたい。

とりわけ日本の労働組合には、日本労働組合連帯をこめて

ノルマ・ビニヤス  
KMU国際部副部長

**3**

私たちJPM90'sは、まず、事件

の全てについて、日本・フィリピン両政府にたいして徹底的な真相の糾明を要求する。

また私たちは、この事件が外国人出稼ぎ労働者を劣悪な労働条件で使

いながら、他方で非合法状態においている日本政府の外国人出稼ぎ労働者にたいする政策に根拠があると考

めている。

更に私たちは、今回の事件で激しい反日闘争が起こっていることにつ

いて、それに根拠があることを考

めている。

それは、日本資本と日本政府によ

るフィリピン支配とその結果に他なら

ない。またこれらの問題で外国人出稼ぎ労働者から日本の救援組織などに救援要請があつたさいでも、同僚の外国人労働者は、解雇やオーバー・

ステイによる資格外活動の発覚を止めることで、日本に働きに来てい

た。それには日本に働きに来てい

かづ、自己批判すべきは、フィリピン出稼ぎ労働者などがこのような状態に置かれていることを許し、フィリピン人出稼ぎ労働者などの闘いを自らの闘いとし得ず、労働者としての歴史と現状にあると思う。

ついでに、第三に非難されるべきは、かつ、自己批判すべきは、フィリピン出稼ぎ労働者などがこのような状態に置かれていることを許し、フィリピン人出稼ぎ労働者などの闘いを自らの闘いとし得ず、労働者としての歴史と現状にあると思う。

一九九一年一〇月一五日

**4**

私たちJPM90'sは、まず、事件

の全てについて、日本・フィリピン両政府にたいして徹底的な真相の糾明を要求する。

また私たちは、この事件が外国人出稼ぎ労働者を劣悪な労働条件で使

いながら、他方で非合法状態においている日本政府の外国人出稼ぎ労働者にたいする政策に根拠があると考

めている。

更に私たちは、今回の事件で激しい反日闘争が起こっていることにつ

いて、それに根拠があることを考

めている。

それは、日本資本と日本政府によ

るフィリピン支配とその結果に他なら

ない。またこれらの問題で外国人出稼ぎ労働者から日本の救援組織などに救援要請があつたさいでも、同僚の外国人労働者は、解雇やオーバー・

ステイによる資格外活動の発覚を止めることで、日本に働きに来てい

た。それには日本に働きに来てい



91年

革命から二年目を迎えるニカラグア  
(四三三号)  
対ソ関係の歴史的転換＝ロンドン・  
サミット  
(四三三号)  
ソ連共産党崩壊をどうとらえるか  
(四三五号)

## ■政治基調

破壊したスターリン主義こえて全世界で共産主義運動の再建かちとろう  
第三世界の革命に連帶する国際主義  
政治闘争の発展を  
(四二七号)  
春季闘争基調  
(四二九号)  
「復帰」から五年を迎える沖縄  
(四三〇号)  
六月闘争アピール  
(四三一号)  
秋季闘争基調  
(四三四号)  
PKO法案の成立阻止せよ  
(四三五号)  
ブッシュ来日阻止  
(四三六号)

## ■党声明

米帝のアラブ侵略戦争を弾劾する  
(四一七号)  
ソ連の事態についての見解  
(四三四号)

## ■情勢分析

湾岸戦争の本質をどうとらえるべき  
か  
(四一八号)  
ゴルバチョフ来日を総括する  
(四三〇号)  
海部のASEAN歴訪が示したもの  
(四三一号)

米帝のアラブ侵略戦争を弾劾する  
(四一七号)  
ソ連の事態についての見解  
(四三四号)

運動90がBAYANと連帶協定を結ぶ  
(四一九号)  
カラバルソン計画反対の大運動を  
(四三一号)  
北部ルソン無差別爆撃を弾劾する  
(四三二号)  
ピース・フェスティバル開催される  
(四三三号)

## 烽火年間総目次

★426～437号

## ■反天皇闘争

天皇ASEAN歴訪阻止  
(四三三号)

## ■その他

革命から二年目を迎えるニカラグア  
(四三三号)  
IPFPが大成功  
(四三五号)

## ■資料

映画批評－「アンボンで何が裁かれ  
たか」  
(四三三号)古典学習(1) 共産主義における「左  
翼」小児病  
(四三五号)「満州事変」勃発6周年によせて  
(上)  
(四三三号)三里塚闘争の新たな局面について先  
進的農民・労働者・学生に訴える  
(四三五号)「満州事変」勃発6周年によせて  
(中)  
(四三三号)「満州事変」勃発6周年によせて  
(下)  
(四三六号)ヨーロッパから送られてきた湾岸戦  
争に関する二つの声明  
(四二九号)噴火の被災者たちは援助を求めてい  
ます—BAYAN (四三三号)

## 烽火

刊  
一部 200円  
(通常号)

たたかいの鮮明な指針を提起する政治新聞  
取り扱い書店

●北海道／ひらひら(札幌市北区) ●東京／明治大学生協(東京都千代田区)、模索舎(同・新宿区) ●神奈川／ルビコン書房(川崎市中原区) ●愛知／名古屋ウニタ(名古屋市千種区) ●京都／オデッサ書房(京都市左京区) ●大阪／大阪ウニタ(大阪市天王寺区)、三鈴書林(同・北区)、関西大学生協(大阪府吹田市) ●兵庫／神戸大学生協(神戸市灘区) ●沖縄／沖縄舎(那覇市)

## 冬季一時カンパを訴えん

たたかう労働者・学生・市民の皆さんに、わが党への結集と圧倒的な冬季一時金カンパを訴える。この数年間われわれは、プロレタリア国際主義の復権と国際連帯活動への具体的着手の重要性を訴え、この事業に全党的力量を投入してきた。それは、かつて第二次帝国主義戦争の前に敗北した共産主義運動の実践的突破をどのようにかちどるのかという、共産主義党建設をめざす者にとって極めて重要な問題であり、情勢はそのこ

とをわれわれに本格的に要求していると認識してきたからである。現在制定がもくろまれているPKO法は、言つまでもなく帝のK.O.法は、言つまでもなく帝の権益を目前の軍隊で守ろうとするものに他ならない。これとのたたかいは、フィリピンなどを先頭としたアジア・第三世界でたたかう労働者人民とのたたかいとの連帯なくして勝利しえないことは明白である。日帝は、明らかに新たな段階に踏みこんだ。帝国主義足下の日本人民の中に国際主義の精神

とをわれわれに本格的に要求していることが共産主義者にとって死活的な任務となってきた。国际主義を口先のスローガンではなく現実の革命的実践に転化し、人民を国際主義プロレタリアートとして建設すること、このことなくして日本の階級闘争の前進も勝利もありえないことをわれわれは確信する。

いまソ連・東欧圏の崩壊の中で共産主義は敗北したといわれている。そしてブルジョアジーは、そ

共産主義者同盟  
(全国委員会)